

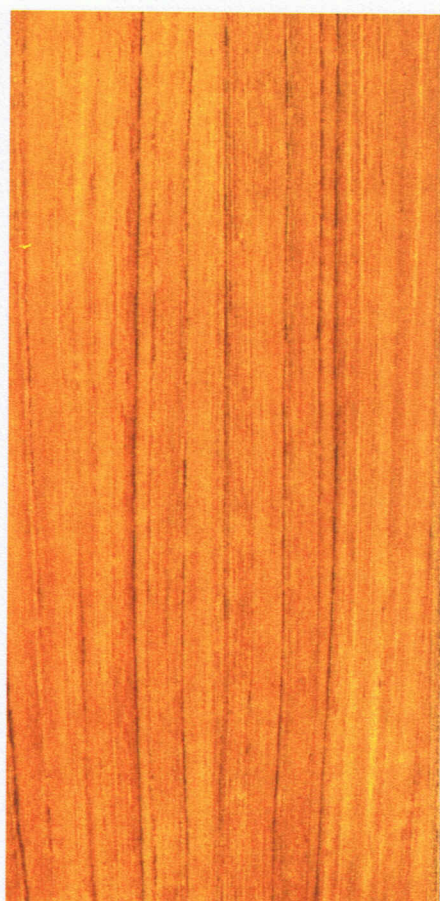
TEAK

チーク

Teak (チーク)		クマツヅラ科チーク属	学名 <i>Tectona grandis</i>
表面状態	環孔材的な散孔材で、肌目はやや粗い。木理は通直である。油性な感じがする。光沢があって美しい。		
生育地	東南アジアを中心(ミャンマー)として生育している。造林木としては世界各地に植林されており、入手できるのは造林木のことが多い。		
材色	心材 金褐色～褐色、柃目に縞模様を生じることがある。辺材 淡黄褐色～白色。心辺材の区別は明瞭である。経時的に暗色化する。		
重さ	気乾比重 0.64(g/cm ³) あまり重い木材ではない。		
強さ	曲げ強さ 92N/mm ² 縦圧縮強さ 45N/mm ² 重さの割には強い。		
弾性係数	曲げ弾性係数 12.5kN/mm ² 重さに対応した硬さである。		
加工性	硬さの割には加工性は良好でサンダーもかけやすい。釘やネジ着性は良好。接着性は一部に不良を生じることがある。		
耐久性	耐久性は非常に高い。水湿に強い。		
安定性	狂いは生じにくい。製品後の安定性は良好。		
乾燥性	木材乾燥は比較的容易。木材乾燥による狂いや割れは比較的小さい。		
塗装性	塗料の付着性は良好。仕上がり感が良い。オイル仕上げ(チークオイル)が最適。		
同名異種	イディクボ(別名;アフリカンチーク、 <i>Terminalia ivorensis</i>)、アサメラ(別名;ゴールデンチーク、 <i>Pericopsis elata</i>)、イロコ(別名;アフリカンチーク、 <i>Chlorophora excelsa</i>)、ペリコプシス(別名;ユーラシアンチーク、東南アジア～南アジア産、 <i>Pericopsis mooniana</i>)、ローデシアンチーク(<i>Baikiaea plurijuga</i>)、アフラルモシア(別名;アフリカンチーク、 <i>Pericopsis elata</i>) こういった高級材には、必ず〇〇チークと称する木材が流通するようになる。チークと種属は異なるが、似たような色調や木目のもので、地域の名前等を冠していることが多い。		
用途	高級家具、キャビネット、船舶甲板用材、デッキ、建具、ドア、壁板、フローリング、ガーデンファニチャー、化粧単板等、内外装に幅広く使われている。 特に船舶用の甲板や内装には高い評価があり、数世紀にわたって賞用されてきた。家具やキャビネット等についても、無垢材や化粧合板等を用いた高級家具が作られている。日本ではチークが流行して多くのチーク材及び〇〇チークが大量に輸入されたことがあった。		



チーク[®]



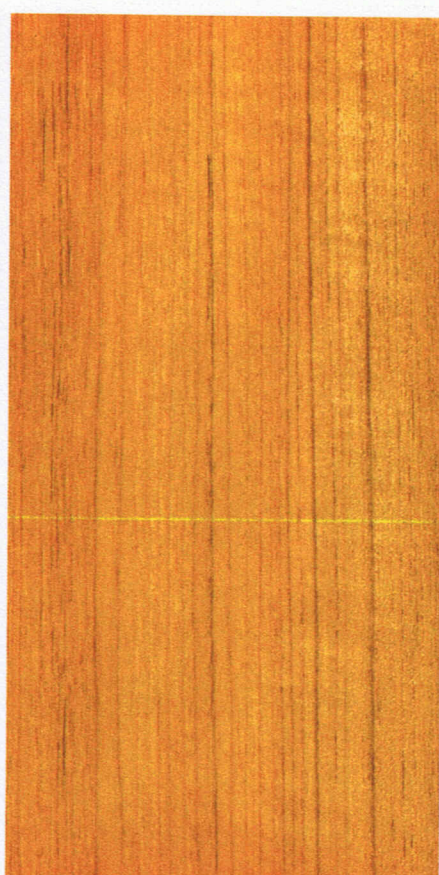
チーク[®]



チーク[®]



チーク



チーク



チーク



イロコ[®]



アサメラ[®]

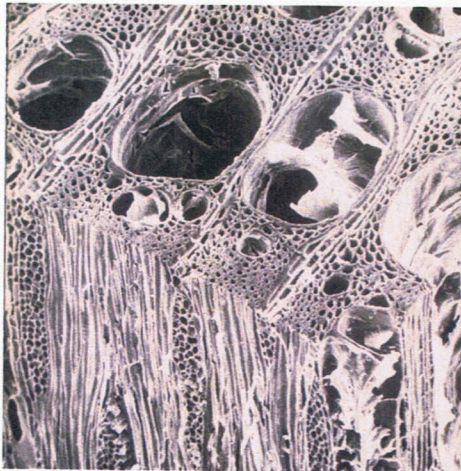


ペリコプシス[®]

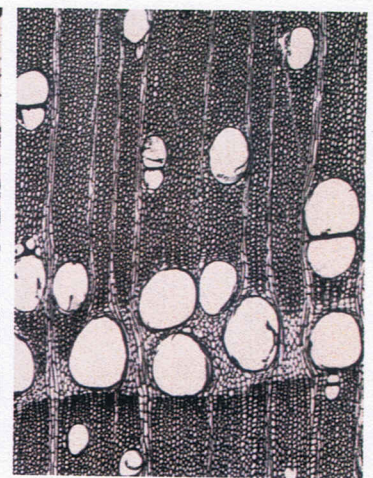
異種同名の樹種	木材の特徴
イロコ (<i>Chlorophora exeisa</i>)	熱帯地域の西アフリカから東アフリカ分布し、非常に重要な樹木となっている。アフリカンチークという名称が使われていた。耐久性は高く、加工も容易で、家具やキャビネット、内装材として使われている。化粧単板にすることも多い。
アサメラ (<i>Pericopsis elata</i>)	アフリカ西部の熱帯地方に産する。アフリカンチークという名称が付けられていた。心材は金褐色で、経時的に濃褐色になっていく。耐久性も高く、加工もしやすい。材面の美しさから家具やキャビネットに使われ、化粧単板として用いられることも多い。
ペリコプシス (<i>Pericopsis mooniana</i>)	東南アジアから南インドにかけて広い分野に生育している。アサメラと同属である。ユーラシアンチークという商品名が使われていた。チークに似て心材は金褐色で黒い縞状の筋が入っている。かなり重硬である。材面が美しいので、化粧単板の形で家具やキャビネット等に用いられていた。

チーク(*T. grandis*)はクマツヅラ科チーク属の広葉樹で、タイ、ミャンマー、インド、インドネシア等といった熱帯モンスーン地域に分布していますが、天然林のチークは極めて貴重な木材となりました。しかし、東南アジアをはじめ、世界各地に広く植林され、人工造林木が流通するようになってきています。しかし植林したものは若干形質に劣る面があるようです。

チークは金褐色～赤褐色の心材と、黄白色の辺材で、辺心材の差は明瞭です。心材に黒～紫色を帯びたの縞状の模様が出る場合もあります。独特の油のような芳香があり、材面はワックスをかけたような感触があります。年輪に沿って導管が少し集まっているので、半環孔材のような木目になっています。肌目は少し粗い感じもありますが、光沢のある美しい材面を形成しています。加工性や乾燥性は、重硬なわりには容易で、木彫等の細かい作業も可能です。また、弾力があって強さがあり、よく乾燥したものは狂いにくい性質を持っています。また、耐久性、耐虫害、腐朽性が高く、水湿にも強いので、船舶や外装にも適した木材です。



チークの走査型電子顕微鏡写真^①



木口の顕微鏡断面^①

耐候性の高さを生かして、船舶の甲板はチーク材を賞用されており、さらに船舶の内装、家具にも使われています。ここから、建築外装材や内装材、家具、建具等にも展開されてきたのだと思いますが、高級材として普及しました。また、突板合板(スライスベニヤ)として使われることも非常に多く、内装壁材、家具甲板等、幅広く利用されてきました。

チーク材の仕上げとして、オイルフィニッシュが多用されています。チークオイルという商品名もあって、黄色味の強い材面にオイルフィニッシュすることによって、落ち着きのある仕上がりを醸し出します。

チークの植林は東南アジアから世界の熱帯地域に広がり、各地でチークが産出されています。それとは別に、チーク材に似た木材を〇〇チークと称している場合もあります。勿論、チークとは科や属は違いますが、それ自体は素晴らしい木材であることが多いようです。